

提言書

1. 課題名：市の名称（現在の市の名称「山陽小野田市」を再検討するか否か）

2. 提言内容

(1) 要旨

新市の名称の再検討を行うか否かについて、「『山陽小野田市』という名称は、民意を反映しておらず望ましいものではないが、市の置かれている苦しい財政状況に加え民間企業等への負担を考えると、半年を経過した現時点では時期を逸した感もあり、再検討は見送らざるを得ない。」という意見が、委員の多数を占めたためこれを提言とする。

当部会においても現名称の選考過程に多くの問題点が指摘されたところであり、上記の提言も様々な問題点を抱えた上での協議結果であることを含み置いていただきたい。市の名称は合併協議の当初より市民の大きな関心事であり、その影響も多方面にわたっている。今回の提言に併せて、問題となった点を明らかにして公開することは、新市の名称再検討を要望された市民への義務であり、さらに行政のあり方を問うことにもなる重要な事柄であるため以下にその報告を行う。また、今後の市政に対する要望も添えている。今後の市政に十分に活かしていただくように切に願います。

(2) 報告

①新市の名称選定における問題点

市民の日常生活に密接に関わる「山陽小野田市」の名称が、今なお、市民の全体的な共感を得られず、再検討すべきとの声が市民アンケートの過半数を超えている現状を見ると、何故この名称になったのか、その原因を合併協議会の議事録の中から検証した。提出された資料は「小野田市・山陽町合併協議会会議録」のうちの新市の名称に関する部分を抜粋したものであった。

この資料及び協議の中ででてきた主な問題点を以下に示す。

1) 名称に対する考え方の議論が詰められていない

→具体的には旧名称を使うか使わないかが非常に曖昧あいまいなままに置かれた。任意合併協議会での「新設合併に伴い旧名称は使わず公募を含め新しい名称とする」という合意事項からして民意がどこにあるか不明の段階で決められたもので、その後の不毛な議論の元となっている。

2) 公募した名称、合併協議会の各委員による投票結果の名称のうち点数の高いものが尊重されていない

→応募作品一覧表では「小野田」「厚狭」（「あさ」を含む）が圧倒的に多かった。

3) 最終的に新市の名称を選出した委員会の協議が非公開であり、議事録も残されていない

→非公開の理由として各委員から忌憚きたんのない意見が述べられるためと説明されているが、学識経験者も含めて選ばれた委員が非公開でなければ意見が述べられないことなど到底考えられない。市民の関心が高く重要な問題だけに当然公開すべきであった。結果として最も知らなくてはならない情報が入ってこなかった。

4) 選考経過及び決定理由の説明が十分になされたとはいえない

→「山陽小野田市」が新市にふさわしい名称である理由がわからない。